



日本聖書神学校 学 報

Japan Biblical Theological Seminary

〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-14-16・☎03-3951-1101 ~ 2・Email: jbts@jbts.ac.jp

2011年4月15日

第136号

発行人 今橋 朗
印刷所 山猫印刷所

今号の内容

巻頭言	1
第63回卒業生	2
新入生紹介	2
教職員の異動	2
本校キリスト教研究所が めざすもの	3
図書館だより	3
学事報告	4
創立記念日集ご案内	4
キリスト教史特講案内	4
神学基礎講座案内	4

Flowers of the garden 庭の草花



肉桂 cinamon

新共同訳はシナモン。クスノキ科の香り高い樹皮でそれから抽出される油は塗油の材料として非常に重要。香料としても価値が高かった。雅歌4:14では「わたしの花嫁」がナルドやサフランと共に「かぐわしい香り」として譬えられている。また、黙示録18:14では、繁栄していた地上の商人たちの商品のひとつとして、金、銀などの高級品と共に並べられているが、地上の都バビロンの崩壊により、それらが全く売買されなくなった嘆きが歌われている。新共同訳で「桂皮」と訳されている香料は、おそらく肉桂の皮と考えられる。桂皮は聖なる香料の材料とされ、詩編45:9では、「神に従う者」への祝福の象徴として「シナモンの香り」がたたえられている。肉桂は、本校では、校舎南側通路の一番奥に位置している。

【巻頭言】

復活の朝を待ち望む

教授 柳下明子



3月11日に起きた東日本大震災で多くの方が被災され、東北・関東の教会でも、多くの被害を受けられたことと思います。3月16日現在、日本キリスト教団での募金が始まっていますが、いまだに被害の全貌はつかめず、これから被災地域の復興のための長い苦闘が始まると理解しています。

そんな中で、東京に住む私が経験しているのは、震災直後から聞こえてくる「原発事故による放射能汚染が怖い」「停電が不便」「食糧不足が心配」という教会内外の声です。被災地とつながるために何をするのか、被災者を支えるために何をするのか、ということよりも、テレビの向こうに見える悲惨な情景にいたずらにわが身の安心を図るための手段を講じる私たちの姿です。買い占めに走り、被災地支援の妨げとなっている私たちの姿です。ところがその一方で地方の教会からは早々と後方支援の役割を担い、次々に安否情報、現地の状況、支援方法などを発信し続けた人もでてきています。なぜこの時点でそのような違いが生まれてきてしまっているのか。それは大都市圏の、とりわけ首都圏の教会が陥っている身体性の喪失が原因のように私には感じられます。体の部分が痛んでいるときに、もはやその痛みを痛みとして受け止める感覚を喪失してしまっている、というような身体性の喪失を教会が経験しつつあるのではないかとことです。

はたして日本聖書神学校は、苦難のうちにある卒業生の方々の支えになることができているでしょうか？たとえそれが十分とは言えないものであったとしても、それでも闇の中に明かりをともしよう、失われつつあるものを命にとどめるような働きができています。被災地域に多くの卒業生を送り出している神学校であるのですから、そのような働きに何がしか参与することができていることが望ましいことであろうと思います。

今年は3月9日に受難節が始まりました。受難節、レントの時は、古代の教会では受洗志願者の最後の準備期間でありました。数年の準備期間を過ぎて、受洗を許された志願者たちは、このレントの40日の間、断食と祈りを続けました。そしてそれは忍耐と祈りを通して神に立ち返る時、本当に神の者として生き、歩み続けることが自分にかなうのかを、試されるときでありました。そのピーク、復活前夜の徹夜の祈りを過ぎ越して、身体的にも精神的にも極限に達した洗礼志願者たちは、喜びのうちに復活の朝を迎え、「まことに主はよみがえられた」という叫びをあげたのです。その叫びは極限におかれたものが、闇から光へと引き出されることなかで、死から命へと引き出されるなかで、自分と言う存在を超えた経験からあげられる心からの叫びであったに違いありません。

身体性を喪失した街である東京の真ん中に立つ神学校と、また身体性を喪失しつつある大都市圏にある教会は、今こそ、本当に神のものとして歩むことがかなっているのか、自らに問いなおさなければならないと感じるものです。主イエスが担われた十字架を、本当に自ら負うものであるのかどうか。誰かに十字架を押し付けて、痛みや苦難に見向きもせず歩むものになり果ててはいないかどうか。この受難節を通して私たちは真摯に問わなければなりません。そして、この受難節を通してそれを問い続けることを得た時、初めて私たちは自分自身の再生を経験することができるのだと思います。

私たちにとっての復活の朝が、本当に死から命へ引き出される経験となるのか、「まことに主はよみがえられた」という叫びを自分という存在を超えた喜びの叫びとすることができるのか。苦難の中におかれている人びとの連帯のうちに復活の朝を迎えたいと思います。

2010年度 第63回卒業生

①卒業時の所属教会 ②実習教会 ③卒業論文 ④赴任教会



大宮克己 おおみや かつみ

- ①大宮教会
- ②大宮教会
- ③エレミヤの召命と預言活動
- ④池袋西教会担任



牧内寛助 まきうち かんすけ

- ①昭島教会
- ②昭島教会
- ③パネンベルク思想の一考察—史的キリスト論をみる—
- ④昭島教会担任



小林久実 こばやし くみ

- ①四谷新生教会
- ②四谷新生教会
- ③旧約聖書におけるネフェシュの用語的考察
- ④目白教会担任



三浦きょうこ みうら きょうこ

- ①蒔田教会
- ②蒔田教会
- ③旧約聖書から新約聖書時代への天使概念の変遷と天使の役割
- ④七飯教会主任



秀島行雄 ひでしま ゆきお

- ①上星川教会
- ②横浜上原教会
- ③使徒教父文書『イグナティオスの手紙』に見る初代教会共同体組織に関する考察
- ④南板橋伝道所主任



溝口周子 みぞぐち ちかこ

- ①西荻教会
- ②巣鴨ときわ教会
- ③今日におけるキリスト教学校の使命 —関東学院の現状と課題—
- ④清水ヶ丘教会担任



宮川忠大 みやかわ ただひろ

- ①田園調布教会
- ②田園調布教会
- ③進化論的世界における神の創造
- ④清水ヶ丘教会担任

2011年度 新入生一覽

【正科生】

- 1. 逢坂喜恵子 西東京教会
- 2. 北原和夫 単立国際基督教大学教会
- 3. 柴崎浩二 世田谷平安教会
- 4. 土肥研一 目白町教会
- 5. 友野富美子 目白教会
- 6. 中野通彦 田園都筑教会

【聴講生】

- 1. 浅賀きみ江 カトリック 麴町教会
- 2. 大村 豊 吉祥寺教会
- 3. 塚本四口六 蒔田教会
- 4. 佃 雅之 単立東京若葉キリスト教会
- 5. 西川真理 京葉中部教会
- 6. 本多広高 信濃町教会
- 7. 森山浩二 無教会 高橋聖書集会
- 8. 山科俊子 目白教会
- 9. 和田芳子 巣鴨ときわ教会

教職員の異動

退任

《職員》

川上智世江(教務部職員) 2011年2月28日
大宮克己(嘱託職員) 2011年3月31日

《講師》

秋葉正二(説教演習) 2011年3月31日
田中牧子(キリスト教倫理) 2011年2月2日逝去

就任

《職員》

川崎達也(嘱託職員) 2011年2月14日
渡邊みちる(教務部職員) 2011年4月1日

本校キリスト教研究所がめざすもの

教授 柳下明子

日本聖書神学校キリスト教研究所は、創立以来、その規則に「本所はキリスト諸学の研究および普及をはかり、もって宣教に寄与することを目的とする」と謳ってきましたが、実質的な活動としては紀要『聖書と神学』の刊行と講演会などの企画などにとどまっていました。このたび新たに活動を充実させるために運営委員会を開催し、今年度の具体的な活動計画について話し合いました。運営委員会の構成は、所長郷義孝、以下高橋克樹、古谷正仁、柳下明子の4名です。

今年の活動計画の中心に考えているものの第一は、日本聖書神学校の卒業生の、継続教育に貢献するプログラムの立ち上げです。日本の各地で宣教の業に召しだされているお一人おひとりの働きを支えるものの一つとして現在のところ想定しているのは、インターネットを経由した形での説教準備のための話し合いの場づくりの可能性です。

日本基督教団の聖書日課に基づき、釈義から黙想までのプロセスを対話形式で進めてゆくことができないか、イメージを膨らませています。また、交通事情などにより図書館をご利用いただくことが困難な卒業生にも、インターネット経由でアクセスして活用していただける形での資料の提供なども検討しています。

また、研究所でテーマを絞った研究会を持ち、そこでの成果を多くの方に提供することなども考えています。研究会のテーマは研究所の運営委員会で提案され、年限を区切ったプロジェクトには運営委員会より研究員を委嘱します。研究員はそれぞれ、テーマに即して個々の関心・観点から研究をすすめ、研究会でその成果を参加者と分かち合います。

2011年度は「礼拝と霊性」というテーマでの研究プロジェクトが立ち上げられました。プロテスタント教会の歴史

の中では比較的内的な事柄として理解されがちであった「霊性」というものを、教会史や礼拝の伝統や、またキリスト教倫理の視点などから多角的にとらえなおしてゆきたいと考えています。随時開かれる研究発表の場は公開のものとなりますので、学報・同窓会報などを通じてお知らせする発表者や研究会のテーマにご関心があればどなたでもご出席ください。

研究所は、日本聖書神学校の卒業生を中心な構成員とする機関です。研究所の働きを覚えてどうぞ、会員としてお支え頂けますようお願いいたします。そして研究所からの発信がくれぐれも一方的なものにならないように、日本の各地でお一人おひとりが担っておられる宣教の課題を共に担うことができるように、宣教の現場からの声をお届けください。

図書館だより

日本聖書神学校キリスト教研究所図書館

No.6

図書館長 石川栄一

ヘボンの「新約聖書馬太傳」

日本語訳聖書の収集につき皆さまにお願いしてからこれまで、様々な訳本が図書館に寄せられました。寄贈して下さった方々には心から、御礼をさせていただきます。

図書館側としても昨年6月に、J・C・ヘボン(1815 - 1911)の翻訳になる「新約聖書馬太傳(マタイ伝)全書」の原本を購入いたしました。裏表紙に定価「十二銭五厘」と、当時の値段が記されていますが今回、図書館はこれに約8万円の費用を費やして購入いたしました。1873年の発行ですが、様々な

人の手に大切に保管されてきたと思われる、原本の痛み、損傷は殆どありません。翻訳もいくつか違和感を覚える言葉もありますが(たとえば「ささげ物」を「禮物」、「地」を「地球」など)、全体としては豊富な語彙を用いて、文章も流暢な和文に訳されています。あらためてヘボンの語学力を知らされる貴重な文献です。手にとって館内で閲覧できます。ご覧になりたい方はご遠慮なくカウンターにお申し出ください。

利用者の皆様への対応

利用者の皆さまが図書館を利用しやすいように、図書館はいつも皆さまの声を聞き取り、改善すべきは改善するよう努めております。

たとえば今後、利用者の方々が自宅などから、資料予約をすることができ

るように図書館データベース・サーバーの変更をする方向を現在、進めています。

また、図書館が閉館しているときなどのため、ブックポストを設置して欲しいとの要望もありました。これについては種々の理由により残念ながら現在、実施は困難なのですが、そのかわりの対策として延長貸し出しを今後、ファックスまたはEメールで受け付けます。ただし延長は一回までとさせていただきます、それ以後は再貸出しとし、一旦、カウンターへ返していただくこととなります(講師の方はすでに60日間貸出であるため延長は不可)。また、留守番電話も閉館中の音声ガイドを残せるように設置してまいります。これからもご意見をお聞かせください。

Diary 学事報告

2010年9月～2011年3月

- 職員旅行(長崎・五島列島)、参加者:5名、9月6～8日
- 学報(第134号)発行 9月15日
- 教授会(第5回)および後期始業礼拝、9月17日
- 教授会(第6回)、10月15日
- 後援会役員会 10月15日
- 理事会評議員会(第181回)、10月22日
- オープンキャンパス、テーマ:「あなたと共に学びたい」、礼拝(カルヴァン式)、説教「慈しみに生きる」高橋克樹教授、公開授業「使徒信条、ニカイヤ信条——それって何?」柳下明子教授、参加者:125名、10月26日
- 全校修養会、研修テーマ「16世紀のカトリックの日本伝道に学ぶ」、講師:川村信三氏(上智大学文学部准教授、神父)、参加者:37名、於・高尾の森わくわくビレッジ、10月29～30日
- 臨時教授会、10月30日
- 理事会評議員会(第182回)、11月9日
- 秋季入学試験(合格者:正科生3名)および教授会(第7回)、11月12日
- 本校60周年史編纂委員会、11月18日
- フィールドワーク委員会、11月26日
- JATE(日本神学教育連合会)研修会に石川栄一教授が出席、於・滋賀県大津市、12月3～4日
- 教授会(第8回)、12月10日
- クリスマス礼拝、説教「驚きの出会い——喜びへ」向井希夫牧師(大阪教区総会議長)、出席者:124名、12月10日
- 年内最終授業、12月17日
- 新年始業礼拝、1月7日
- 学生自治会総会、1月11日
- 同窓会拡大役員会、1月14日
- 神学基礎講座受講生との懇談会、1月17日
- 教授会(第9回)および卒業論文講評会、1月28日
- 小林利夫元校長召天記念式および同元校長を偲ぶ会、1月31日
- 卒業論文発表会、2月3日
- 卒業予定者と同窓会役員との懇談会、2月4日
- 同窓会東京支部会、2月14日
- 同窓会神奈川支部会、2月15日
- 春季入学試験(合格者:正科生3名、聴講生:9名)、2月17～18日
- 教授会(第10回)、2月18日
- 後援会役員会、2月25日
- 第63回卒業礼拝、説教「軛を負いて」徳田隆二牧師(巨摩教会、本校28期卒業生)、卒業生:7名、出席者:175名、2月28日
- 本校60周年史編纂委員会、3月3日
- 教授会(第11回)、3月4日
- 理事会評議員会(第183回)、3月8日
- (東日本大震災、3月11日)
- 新入生オリエンテーション、3月16日
- 教務部職員採用試験、3月19日

神学基礎講座のご案内

2011年度は一挙に13講座を開講。聖書を基本から学びたい方には「新約概論」「旧約概論」「旧約聖書」の講義をご用意いたしました。

また、午後6時過ぎの講座は基本的に神学校の授業に合流するものです。神学教育に興味や関心のある方にも大いに刺激になることでしょう。後期に開講される講座は以下のとおりです。

「キリスト教史Ⅰ(2世紀～中世)」

柳下明子教授

月曜日 午後6時50分～8月20分
9月26日～1月23日 全14回

「キリスト教と文学」 柴崎聰講師

水曜日 午後4時～5時30分

9月28日～12月14日 全10回

「キリスト教教育Ⅱ」 大島果織講師

水曜日 午後6時15分～7時45分

9月21日～1月25日 全14回

「キリスト教倫理」 高橋克樹教授

水曜日 午後6時15分～7時45分

9月21日～1月25日 全14回

「スピリチュアルケア論」 窪寺俊之講師

隔週金曜日に2コマ連続(開催日にご注意下さい)

午後2時20分～3時50分、午後4時～5時30分

9月30日、10月14日、28日、11月11日、25日

「新約概論」 笠原義久教授

金曜日 午後8時30分～10時

9月16日～1月20日 全14回

創立65周年記念日集会のご案内

本校後援会主催の「創立65周年記念日集会」を、5月8日(日)午後4時30分から本校にて開催します。第一部は、開会礼拝と後援会報告(菊池公平会長)に引き続き、昨年春教授に就任された柳下明子先生による公開講義「古代の教会の『働き人』たち」が行われます。これは、古代の教会から私たちが信仰に連なることの意味についての講義です。第二部は、食事会・茶話会です。その交わりの会において、神学生による証し、および神学生を送っている教会、神学校を支える信徒の方々との交わりのときをもちます。多くの方々のご参加を願っております。

と き:2011年5月8日(日) 16:30～20:30

と ころ:本校礼拝堂・図書館3F

主 催:日本聖書神学校後援会

キリスト教史特講(夏季集中講義)のお知らせ

— 正教師受験対策 —

今年度もキリスト教史特講を開講します。この科目は在校生だけでなく、教団正教師試験に備えている補教師の方々にも開かれており、受験対策を考慮して行われます。下記の要領で行われますので、お申し込みください。

記

科 目 名:キリスト教史特講(夏季集中)

講 師:久山道彦講師(明治学院大学教授)

期 間:2011年8月1日(月)～3日(水)

時 間:18:15～21:25(毎日)

費 用:2,000円

受 講 資 格:本校在校生および日本基督教団補教師で、正教師試験に備えている者。

申し込み等は教務部に問い合わせてください。